

明日をひらく都市



YOKOHAMA 6

こうほう
広報よこはま

2024

たち **館ひろし** × やまなかたけはる **山中竹春** × しばたきょうへい **柴田恭兵**



さいこう **最高のロケができるまち**
ヨコハマ

よこはま **横浜フィルムコミッションが支援した** えいが **映画「帰ってきた あぶない刑事」の舞台** ぶたい
よこはま **横浜の魅力についての対談のようすは2・3ページへ**

市長対談

「あぶない刑事」の舞台 横浜の魅力を話し た ち 館 ひ ろ し × 柴 田 恭 兵 ×

「あぶない刑事」(刑事のことを「デカ」といいます)は、横浜を舞台にして、タカ(館ひろし)とユージ(柴田恭兵)が大活躍する刑事ドラマです。1986年からテレビドラマが2シリーズ、さらにスペシャルドラマや映画7本が公開されました。とても人気のある作品です。横浜市が撮影を支援した8本目の映画が5月24日に公開されます。その記念に、横浜の魅力について、館さん、柴田さんと山中市長が話し合いました。

館さん
柴田さん
山中市長

最高のロケができるまち、横浜

「あぶない刑事」の舞台になっている横浜にはどんな印象を持っていますか。

館さん (このあとはTに省略) 僕はね、横浜は人も景色もうるおっている「ぬれてる町」だと思うんです。東京ってすごくかわいた都会だという気がして。山下公園の近くは、ホテルニューグランドとか当時から変わらないけど、雰囲気があってエキゾチックですよ。こういうすてきな場所はこれからも残してほしい。

柴田さん (このあとはS) 横浜はほんとに絵になるんですよ。景色や建物はもちろんですが、撮影のとき走りまわった、ちょっとした路地も一つ一つ、横浜というイメージを作っている一部分だと感じています。どこで撮っても、景色のおかげで、すてきな映像になるんですよ。

山中市長 (このあとはY) うれしいです! 「あぶない刑事」は、1986年から横浜で撮影していますね。横浜と映画の関係は古くて、大正時代(1912~1926)には元町公園の中に撮影所ができて、たくさんの映画が作られました。その後も、港やヨーロッパのような建物、中華街など、「横浜にしかない」景色がロケ地になってきました。そして映画界や地元から、「ややこしくめんどろな撮影許可の申請手続きを市でまとめてほしい」という声があったので、市役所の中に「横浜フィルムコミッション」をつくりました。現在では、毎年700~800件の相談をうけて、経験をつんだ市の職員が50作品以上の撮影をていねいにサポートしています。こうした市のとりくみによって、作品をつくる人たちとの信頼関係ができて、横浜を舞台にしたたくさんの作品ができ、さらには横浜をおとずれる人がふえるという、よい流れにつながっています。これからも、映画やドラマを通じて、横浜の魅力を広く発信し、ブランドを高め、より多くのお客さまに来てもらいたいです。



S僕は横浜が舞台の作品に出ることが多かったんですが、撮影していても、横浜のみなさんはあたたかかったですね。

Tみんなすごく協力的で。僕は「西部警察」を東京で撮影していたんだけど、横浜のほうがあたたかかったです。

Yありがとうございます。これからも、「横浜でロケをしたい」と感じてもらえるような環境をつくっていきます。

「この38年、ベイブリッジやランドマークタワーなど、まちづくりが進んで景色が大きく変わりました。」

T赤レンガ倉庫のところなんて、38年前は何もなかったよね。今は雰囲気のよい商業施設になっている。中華街もにぎやかで元気だよ。この映画に出てくるハンマーヘッドも、そこに新しくできたインターコンチネンタルホテルも、すてきですよ。だって、本当にすぐそばに海が見えるんだよ。なかなかそんなロケーションはない。

Y臨港パークからハンマーヘッド、さらに山下公園までのおよそ5kmの海ぞいの水際線は、景観も美しいですし、観光施設も集まっています、世界にじまできるロケーションだと思っています。

T今回、山下公園から赤レンガ倉庫まで、海のそばを通る「ぜよこはまパレード」に参加して、横浜の魅力をあらためて感じました。



Yパレードのときだけでなく、山下公園通りでの歩行者天国や、夜はどの季節でも打ち上げる花火「横浜スパークリングトワイライト」など、公共空間を使って1年中楽しめるようにしています。これからも、ほかの都市にはない横浜の水際線の魅力をもっともっとみがかいて、国内からも外国からも、さらにたくさんのお客さまに来てもらえるように、にぎやかな空間にしていきたい。お二人もぜひ歩いてみてください。

S僕は撮影のとき、道路を走りまわりましたから、プライベートで来たときに、「ここも走りまわったな」とか、「この道路も撮影したな」とか、思い出がいっぱいありますね。

Y本牧や野毛、伊勢佐木など、昔からのエリアも横浜の魅力の一つですよ。「あぶない刑事」では、昔なつかしい町なみから新しいビルが立ち並ぶエリアまで、さまざまな場所が出てきますが、放映を行う東映と協力して、これまでのロケ地めぐりを紹介するマップをつくりました。対象になっているお店で買い物をすると、「あぶない刑事」のステッカーがもらえるタイアップ企画もあります。横浜に来るたくさんの人たちに、有名なシーンの舞台をまわって、横浜の魅力をじっさいに感じてほしいですし、経済の活性化にもつなげていきます。

S山下公園や大さん橋から、クルーズ船やコンテ

ナ船、クレーンが見える港の風景も、横浜らしさですよ。



Yそうですね。海の上から見る港の景色もすてきですよ。昨年1年間でクルーズ船が横浜港に入港した回数は171回で、国内トップです。横浜にクルーズ船で来るみなさんにも、海から見る横浜の景色を楽しんで、港に着いた後は、横浜のまちのあちこちへ行ってもらうなとりくみをしています。これから臨港パークに展望ゾーンをつくります。またカフェとランニングステーションがある施設が2025年度にオープンする予定で、もっと観光してもらえるようにしていきます。ぜひまた来てください。

すてきな仲間にかこまれて

「8年ぶりの「あぶない刑事」の撮影はいかがでしたか。」

T8年ブランクがあったとは思えないくらい、みんなむかしと全然変わらず、すぐにタカとユージ、あぶ刑事のチームになれました。ほんとに仲良しなんです。

S前の作品からの8年のあいだに、コロナもあって、みんながこれまでとちがう時間をすごしたと思うんです。あたり前のことができなくなるというか。そんな時間を経験して、仲間といっしょにすごせることの魅力を

映画とともに横浜のまちの魅力をさらに発信

撮影されたシーンの写真ものっているロケ地マップがもらえます。

※なくなったら終わりです

【もらえる場所】市内の観光・商業施設、区役所、観光案内所など



対象になっているお店で500円(税込)以上の買い物をすると、オリジナルステッカーを1枚プレゼント!

【くばる期間】6月30日(日)まで
※なくなったら終わりです
※お店によって、対象の商品が異なります。

©2024AD

かわいいことはこちら

あ合う やまなかたけはる 山中竹春

さいにんしき
再認識しましたね。

Y「仲間といっしょにすごせる」って、とてもすてきなことですね。横浜は都会のイメージが強いと思いますが、実は人のつながりがとても濃い町なんです。自治会町内会など地域をささえる活動をしている人がたくさんいて、地域のお祭りもさかんですし、高齢者や子どもたちの見まもり、公園や道路など町をきれいにする活動などがさかんに行われています。こうした地域の絆がまもられていることが、先ほどお二人が言った「横浜のあたたかさ」にもつながっているんだと思います。横浜市としても、これからも地域をささえる活動をしっかり支援していきます。

わか かんせい そだ 若い感性を育てる

—この作品は長いあいだ愛されてきました。作品づくりの中で大切にしていることはありますか。

Sどんなにくだらないことでも、いっしょうけんめいがんばって、できるかぎりやりましょうということを大切にしています。どんなシーンでも手をぬかずに、楽しんでやりましょうという姿勢、「あぶ刑事魂」ですね。

T今回、シリーズの最初のころには生まれていなかったくらい若い撮影スタッフが多かったんです。だけど、若い人は感性がゆたかだし、すばやいし、なんでもうけ入れられる吸収力があるんですね。刺激をうけたし、これまでの歴史と新しい風を融合させた作品ができたと思います。



よこはましん 横浜市民へのメッセージ

—最後にお二人から、横浜市民のみなさんにメッセージをお願いします。

Sみなさんのおかげで、とてもすてきな映画になりました。この映画の撮影が成功したのは、横浜だったからだと思うんです。ぜひ、楽しんでもらえたらうれしいです。

Tほんとにそうだね。38年前に「あぶない刑事」を横浜で撮影しようと決めたことが、「あぶない刑事」の勝利だった気がします。変わらぬ良さを持ちながら、日々進化する横浜の魅力とともに、映画を見てもらえればと思います。

Yありがとうございます。タカとユージはもちろん、多くのみなさんから愛されるまちであり続けるために、市内内外に発信できるような魅力をつくりあげていきます。



こうほう
広報よこはまPlusで、
たち 館さん、柴田さんへの
インタビューが読めます。



たち 館ひろし プロフィール

1950年3月31日、愛知県で生まれる。1976年に映画「暴力教室」で俳優デビュー。その後、「西部警察」(79~)をきっかけに石原プロに入った。36歳の時に主演した「あぶない刑事」(86~)で大ブレイク。「終わった人」(18)では第42回モントリオール世界映画祭最優秀男優賞を受賞。「アルキメデスの大戦」(19)、「ヤクザと家族 The Family」(21)、「ゴールデンカムイ」(24)などにも出演。

しばた きょうへい 柴田恭兵

1951年8月18日、静岡県で生まれる。1975年に劇団「東京キッドブラザーズ」に入る。86年「あぶない刑事」で大ブレイク。演技がうまい俳優としてドラマ「はみだし刑事事情熱系」(96-04)、「ハゲタカ」(07)など数々のドラマシリーズに出演。そのほか映画「集団左遷」(94)、「半落ち」(04)、「北のカナリアたち」(12)など。最新作にドラマ「舟を編む〜私、辞書つくります〜」(24)がある。

Yお二人やスタッフたちのいっしょうけんめいな思いや若い力が、すばらしい作品を生み出す源だったんですね。私も、若い世代の感性や、可能性をのぼすことが何よりも大切だと思っています。横浜市では、「子育てしたいまち」をめざして、未来をせおう子どもたちへの支援を最優先にとりくんでいます。たとえば、国際理解を深めて、平和を考える「よこはま子ども国際平和プログラム」のスピーチコンテストには、およそ4万人の子どもたちが参加し、「国際平和のために自分がやりたいこと」をテーマに、熱い思いを語ってくれました。入賞者はニューヨークの国連本部へ行ったりするのですが、貴重な体験をした子どもたちが短期間のうちに成長するのにはおどろきます。小さいころから何にでもいっしょうけんめいとくむと、経験の幅が広がり、ゆたかに成長することができますよね。このようなスケールの大きなグローバル教育を提供できるのは、横浜だからこそと思いますし、これからも多くの分野で若い世代が、自分で考え、それを発信していく場をつくって、無限の可能性を広げていきます。

「帰ってきた あぶない刑事」 (5月24日公開予定)

タカ&ユージは、刑事を引退してニュージラードで探偵事務所を開き、ゆうゆうとくらしていた。もう一度横浜にもどって探偵の仕事スタートさせようとする二人の前に、最初の依頼人として現れたのは…まさかの娘!? 二人は彼女にたのまれてははおや、母親をさがし始めるが、行く先々で事件が次々におきる。やがて二人に、横浜で爆破テロを計画する“新しい敵”がせまってくる――。

【監督】原廣利
【脚本】大川俊道 岡芳郎

【出演】

たち 館ひろし 浅野温子 仲村トオル 柴田恭兵
つちや 土屋太鳳
にし のなまき 西野七瀬 早乙女太一 深水元基
はせ せ べ かなえ 長谷部苗苗 鈴木康介 小越勇輝/杉本哲太
きしたに 岸谷五朗/吉瀬美智子



くわしいことは
こちら



モデル実施 放課後キッズクラブ 放課後児童クラブ

子育て世帯の夏を応援!



夏休みの昼食提供が始まります!

小学生にとっては楽しい夏休み。でも給食がないので、働いている保護者は、毎日、子どもの昼食をどうしようか、となやむでしょう。そんななやみを軽くするため、横浜市では、今年の夏休み期間中に、すべての放課後キッズクラブ・放課後児童クラブで昼食を提供します。

スマホでかんたんに注文して、しはらうことができます。保護者には、クラブを通じて6月初めごろに案内します。この機会にぜひ利用してください。

放課後キッズクラブ・放課後児童クラブとは

横浜市には、小学校の施設を使う「放課後キッズクラブ」と地域などで運営する「放課後児童クラブ」があります。保護者が仕事などで昼間家にいない家庭の子どもたちが、学校が終わった後に楽しく安全にすごせる場所です。



親子にうれしいポイント!

いそがしい朝のお弁当づくりがいらぬい!

栄養満点! バランスのよい

メニューが食べられる

1食400円(税込)で利用できる



お弁当のイメージ

注文はスマホでかんたん!

利用のしかた

STEP 1 スマホ(ウェブ)で前もって注文・決済



STEP 2 その日に業者がクラブに配送



きくところ 横浜市青少年局放課後児童育成課 TEL:045-671-4068 FAX:045-663-1926 (6月初めに専用コールセンターができる予定)



かわいいことはこちら

よこはま 彩発見 vol.18

海、港、緑、歴史、地域、人々など、さまざまな魅力を持つ横浜。このまちの彩りを「よこはま彩発見」として届けていきます。今月は「♪わが日の本は島国よ～」でおなじみ、横浜市歌についてです。

知っているようで知らない、横浜市歌115年の秘密



日本のいろいろな場所の文化や習慣を紹介するテレビ番組で、「横浜市民ならだれでも歌える!」と話題になる横浜市歌。1909年、横浜港の開港50周年の記念に作られました。

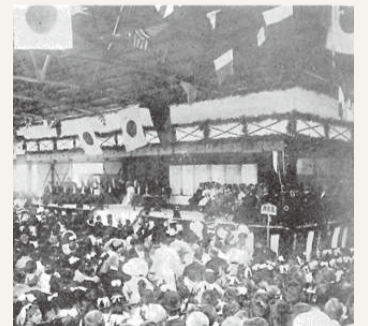
作詞をしたのは、小説『舞姫』などで有名な作家、森鷗外(本名: 森林太郎 1862-1922)です。作曲をしたのは、東京音楽学校(今の東京藝術大学音楽学部)助教授の南能衛(1881-1952)でした。南は27歳で助教授になるような、いきおいのある若手でした。南が先に曲を書き、あとからそれにあわせて鷗外が詩をつけました。

市歌は、7月1日の横浜開港50周年記念の式の祝賀会で初めて歌われました。指揮は横浜の音楽教育家の高野己之助、演奏は横須賀海軍楽隊で、市内の小学校からえらばれた300名の生徒が歌いました。

1966年には「横浜市歌普及専門委員会」が、もとのト長調から音程を低くしたほか、複雑な音程やリズムを少し変えて、多くの市民が歌いやすいようになおしました。

その後、カバー曲、アレンジ曲(ジャズ、ブルースバージョン、盆おどり、健康体操など)もたくさんつくられて、横浜DeNAベイスターズの応援歌にもとりいれられました。

今でも、横浜市立小学校では市歌を教材にして、小中学校の入学式や卒業式で歌えるように歌を教えています。横浜開港祭の「ドリーム・オブ・ハーモニー」では、一般から集まった300人ぐらいの市民合唱団が、毎年ステージの1曲目として市歌を歌います。110年以上長い間、市民に愛されてきた横浜市歌を、これからもずっと歌っていききたいものです。



市歌が初めて披露された祝賀会 『横浜開港五十年記念帖』 成田景暢編 横浜時事新報社 1909年 横浜市中央図書館にあります

参考: 横浜市中央図書館ウェブページ『ブックリスト「読んで知る横浜市歌」』 横浜交響楽団編『横浜開港150周年・横浜市歌100年』 横浜市歌(横浜洋楽文化史)

横浜市歌 もとの曲の利用について もともとの曲の著作権は保護期間をすぎているので、原則として自由に使うことができます。

きくところ 教育委員会事務局生涯学習文化財課 TEL:045-671-3282 FAX:045-224-5863